



自治連だより

第30号



謹賀新年

鳥取市自治連合会
会長 南部 敏

会員皆様には、ご家族お揃いで輝かしい新春をお迎
えのこととお喜び申し上げます。

さて、昨年は新型コロナウイルスの世界的大流行、
東京オリンピック、パラリンピック他ほとんどの行事
が延期又は中止され、我々自治連合会活動でも総会は
書面表決とさせていただき、全国大会をはじめとする
大人数で開催する事業を延期及び中止とさせていただ
きました。会員の皆様にはご迷惑をおかけし地域の連
帯意識がより希薄にならないかと心配しております。
来年度はコロナウイルスの状況にもよりますが、恒例
の行事は予定通り実施させていただきますのでその節
はご協力よろしく申し上げます。

又、自治連合会では自治会への加入促進活動を展開
しています。より多くの皆様にご加入頂き、地域づく
りに皆で協力し、助け合い住んで良かったなと思っ
ただけの地域にしていって頂ければと思います。
今後行政とも車の両輪の精神で連携し、「安心安全
で活力あるまち鳥取市」実現を目指し協働していき
たいと考えています。

新型コロナウイルスの早期終息と各地区会長、各町
内会（区）長、並びに地区住民皆様のご多幸、ご健康、
ご発展と鳥取市自治連合会へのご指導、ご鞭撻、ご協
力をお願い申し上げます。

遷喬地区

遷喬地区のまちづくり 協議会活動について

遷喬地区まちづくり協議会

会長 浦木 清

鳥取市でまちづくり協議会が発足した平成
二十一年より三年前、平成十八年から三年間、
市からの委託を受け試行的なまちづくり活動
をおこないました。

「地域活性化部会」等四つの部会を設定、諸
団体と町内会からの推薦の委員でスタート。
力点を置きたかったのは「地域活性」で商店
経営者と地域住民の話し合いを通じて商店街
の活性化の知恵を探ることでしたが、思っ
たような成果を挙げることは無理でした。
「歴史・文化資産検証」部会では遷喬地区の「町
のなりたち」、「ゆかりの人たち」、「地区のた
からもの」を紹介した貴重な冊子「遷喬地区
の歴史・文化を訪ねて」を発刊することがで
きました。



まちコン風景

このような三年間の活動を土台とし、まち
づくり協議会の結成に向かったため、事業内
容に関心・議論が集中し、地域における「ま
ちづくり協議会」の立
ち位置、即ち、町内
会長会を含む従来の
諸団体と「まちづく
り協議会」をどのよ
うに関係づけていく
かという基本的な議

論が不十分のままに発
足し、結果として、「ま
ちづくり協議会」とい
う団体が新たに加わっ
たような形になってお
り、今後の課題となっ
ています。

現在、遷喬地区まち
づくり協議会は地区の
課題を**高齢者対策・少子対策・まちのにぎわ
い対策**と設定して、この課題に沿った次の三つ
の部会



秋の芋煮会（雨天のため屋内）

＊お年寄りにやさしいまちづくり部

＊子どもにやさしいまちづくり部

＊にぎわいのあるまちづくり部

を設け、諸団体、町内から推薦された約三十
名の委員で運営しています。お年寄り部会、
子ども部会、は、まち中歩きとあいさつ運動
を継続。特筆すべきは「にぎわいのあるまち
づくり部」の活動で、当初は、「遷喬地区再発見」
と銘打ち、その年のテーマを設定し、そのテー
マに沿ったマップを作り、イベントを企画実
施しました。

＊テーマとマップが「匠」で手づくりの店

の親子ぐるみでの訪問。

＊「食」で1コイン味めぐり

…今年で十回目と継続。

＊「婚」でまちコンを実施、女性の心

募が僅かで二年間で打ち切り。

等々と頑張りましたが、種々が尽きてしまい、
現在は右記の「遷喬地区味めぐり」と夏の「サ
マーフェスティバル」、秋の「芋煮会と星の観
測」を中心に賑わいづくりを目指しています。

明治地区 特色ある自治活動

明治地区区長会
会長 椿 重雄

明治地区自治組織として、区長会、公民館、郷づくり協議会の三つの組織があります。それぞれの組織のもと独自の活動を歩んできました。少子高齢化、過疎化、農林産業の衰退化が急激に進む中、これらの組織は課題を共通にしています。有効な手が打てないのが現状でありました。

平成三十年、鳥取市は公民館とまちづくりの在り方について検討を始めました。明治地区も、乗りかかってくる課題に対し、ただ見ているわけにはいきません。

三つの組織を束ねて、課題にたち向かおうと、市の協働推進課を交えて協議してまいりました。



2019年明治地区夏まつり

そこでまとまったのが、明治郷づくり協議会を中核とした新たな組織です。公民館運営委員会と郷づくり協



2019年森林ウォークin安蔵

れない組織に生まれ変わったわけではありません。

それによって、事業をするにあたり、住民が相談・決定・実施していくという住民参加体制が出来上がりました。

四部会で組織しており、地域中の沿道に種を蒔きコスモロードを作ったり、地域防災の先進地を視察し、防災マップを作製したり、マップに基づいた各集落防災訓練を行いました。また「森林ウォークin安蔵」と称し、地区内外からの参加者がウォークを楽しんでいます。空き家対策、地区特産品づくり、農産物販売も手掛けていきたいと夢を追いかけています。

議会を一本にし、区長会は新組織に加えるというものでした。区長会そのものが吸収されたくわけではなく、各区长が新組織の中に位置づけられるというものです。つまり三組織が切っても切



城北公民館正面

城北地区 待望の「新公民館」がついに完成

城北地区自治連合会
会長 水田憲夫

令和二年三月 旧鳥取警察署跡地（青葉町三丁目）に城北地区公民館が、城北保育園との複合施設として竣工しました。

この施設は、平成二十三年にまとめられた「城北まちづくりいきいきプラン」にもとづくものです。そのプランには、コミュニティ活動の拠点施設である地区公民館・将来を担う子ども



達を育てる保育施設である城北保育園の移転新築等が盛り込まれています。

旧城北公民館（田園町四丁目）は、昭和五十四年に建設されて以来老朽化し、安全・

安心して利用できる施設の整備が課題となっておりました。

新公民館の主な特徴は、玄関先に花壇を配し、研修室四部屋・十二畳の和室・調理室の他に図書・談話室コーナー、さらには福祉相談室を備え、バリアフリー対応の平屋建てとなっております。

また、敷地の広さを生かして広い駐車スペース・大型倉庫と駐輪場・別途設置の防災倉庫・その他大画面ディスプレイで行事案内・トイレはウォッシュレット等々立派な公民館となりました。

ただ、収束の見通せない新型コロナウイルスにより予定していた「竣工式・祝賀会・内覧会」は、全て中止となり誠に残念な結果となりました。

新公民館がこれからも城北地区の皆さんの生涯学習の場として、また地域福祉や防災等・地域コミュニティ活動の新しい拠点施設として出発するにふさわしい条件が揃いました。

浜坂地区

集い・ふれ合い・助け合い

浜坂地区自治連合会
会長 米原慶三

浜坂地区では、近年宅地開発が進み人口が増え続けています。その結果、地域コミュニティが薄れつつあります。その中で町のつくりを進行中です。「集い・ふれ合い・助け合い・ゆたかで住みよい浜坂」合言葉に、浜坂六大事業を行っています。

一・新年を祝う会

伝統行事とスポーツを通じて、ふれ合いと世代間交流を図り地域住民の健康と多幸を祈念する。午前は餅つき、ビンゴゲーム、グラウンドゴルフ、バウンスポール等を行い、午後からは、新年互礼会を開き、交流を図ります。

二・浜坂地区大運動会

浜坂小学校と浜坂地区合同で行います。六百人を超す児童の元気いっぱい演技、競技は頼もしさを感じます。また町区対抗では大変盛り上がり、特に町区対抗リレーは最高に盛り上がりがあります。

三・納涼盆踊り大会

浜坂音頭をはじめ、河内音頭、炭坑節、でろれ



新年を祝う会

ん音頭の四曲を踊ります。又町内会担当の夜店、各種団体、PTAの夜店で大変賑やかです。

四・しゃんしゃん祭への参加

小学生を中心に、中学、高校、一般の参加希望者を募集し、二ヶ月位の練習を経て「オアシス浜坂砂丘連」の名前で参加しています。

五・浜坂地区敬老会

敬老会の余興では、幼稚園、保育園、小学生のかわいい演技や、町内の有志による余興など、楽しい一時を過ごします。

六・浜坂公民館文化祭

公民館活動の作品展示、健康相談、喫茶コーナー、取れたて野菜の販売等が行われます。中でも一番人気はオール百円の屋台村で、焼そば、コロッケは汗だくで作っています。

その他各種団体で色々な活動を行っています。オアシス浜坂町づくり協議会のフラワーロード事業、体育会の町内対抗競技、交安協と青少年育成会議の子供の見守り、青パトパトロール、民児協の高齢者、子供の見守り、自主防災の防災訓練等、安心安全の町づくりに頑張っています。残念ながら今年度は、新型コロナウイルスの影響で多くの事業が中止となりました。早く新型コロナウイルスが終息し、元通り事業が出来ることを祈るばかりです。



松保地区

松保地区地域活性化活動について

松保地区区長協議会
会長 太田垣一司

松保地区は、鳥取駅より西に五キロ程の距離に位置し、東西に新旧十六集落から成り立っています。

中間あたりに布勢総合運動公園があり、陸上競技、屋内外競技がよく行われております。また子ども達の遊び場及び遊具もあり、家族連れもよく見受けられます。

そして、すぐ西側には日本一の湖山池があり、田園地帯と山の緑が合わさった所に位置しております。なお、湖山池には九月より遊覧船が再就航しています。

さて、松保地区の主な特色として第一に「麒麟獅子舞の保存」活動を行っております。全地区ではありませんが、旧集落七カ所で行われており、舞の時間は色々で本舞から簡易的に終わらせる場合とあります。しかし、近年どこも同じで人数確保に苦労しておられ、合同で行うとか、最悪当年は中止するとか、存続に向けた話し合いがなされています。

第二に自主防災活動について、毎年十一月前後に「防災フェスタ」として

開催されており、二百人前後の参加があり防災に対する意識が向上している様に思われます。内容は、はしご車・起震車はなかなかの人気があり、行列が出来る程です。他には地区消防団による災害時における救助作業の実演、救急処置の体験等、参加者が体験出来るようになっております。そして終わりの頃には防災用食品が用意され参加者全員に試食してもらってから終了となります。

第三に夏場の夕方に防犯パトロールを行っており、地区を東・中・西の三カ所に分けて区長全員が参加して一時間ほどパトロールをしております。近年何事も発生しておらず、安全安心のまちづくりに貢献しております。



鳥崎神社の麒麟獅子舞

町内会加入促進の取り組みと課題

今や人口減少が急速に進んでいる中、鳥取市自治連合会でも同じように人口減少、世帯数減少という問題が取り上げられてきています。ただ鳥取市に於いての全世帯数は少しずつ増加していますが、原因としては一軒の家で親子の世帯分離が増えてきているのが実情です。一口に加入率の問題だけではかたづけられませんが、ここ十年間の加入率を比較してみても、平成二十三年の加入率が七十パーセント位、令和二年の数值が六十四パーセントと年を追って段々と減少してきています。新市域地区は加入率の数值は高いですが旧市においては六十一パーセント位と低い数值になっています。自治連合会におきましても平成二十八年度から加入促進部会を立ち上げ、鳥取市、宅建協会、自治連の間で三者協定を結び加入者数アップの取り組みをはじめていきます。実態のアンケート調査、アパート、マンション等への加入促進のチラシ配布など、色々な策を講じてはいますがあまり効果はでていません。

取り上げられる問題としては町内

会に入らなくてもゴミ収集や街路灯などにしても設置してあり特に問題ない。町内会に入っても活動はしたくないし、まして役までしたくない。マンションで共益金を納めていてその上に町内会費まで払うのか、高齢で参加しにくい、その他色々ありますが地域とのつながりを持たなくても生活に大きな影響はないのが理由の一つだと考えられます。ただ小学生や子供を持つ家庭は地域での運動会や行事などに参加しづらいというような事も聞きますし、地域の情報（広報紙の配布）を知りたい人もおられるようです。また要望、陳情等があってもしにくい人もあるようです。

新しくできた団地や分譲住宅、戸建住宅などに入居された方々には地域に即馴染むことは難しいだろうとも考えられます。年月のかかる問題とは思いますが大きな災害が起こることもあるかも知れませんが治安維持のこともあります。また地域の支援活動や福祉活動の必要性も考えられます。人間一人では生きていきません。自助・共助・公助とよく言われますが、家族から始まり隣近所、地域と繋がっているもの

です。自治会、自治連合会もその繋がりで。メリット、デメリットはそれぞれありますが、皆さん、地域の活性化の為に未加入世帯の方に声をかけ、町内会活動に参加しましょう。何か分からない事がありましたら、自治連合会事務局内の地域支援アドバイザーに相談されるのもよいかと思います。

話は少し変わりますが、昔は神社が各集落にあり神社総代を中心に年間行事等が行われ地域がまとまっていた。しかし、戦後生活体系も変わり村中心から会社（勤務先）中心の社会へと変化してきました。（農漁村中心から二次産業、三次産業への転換）

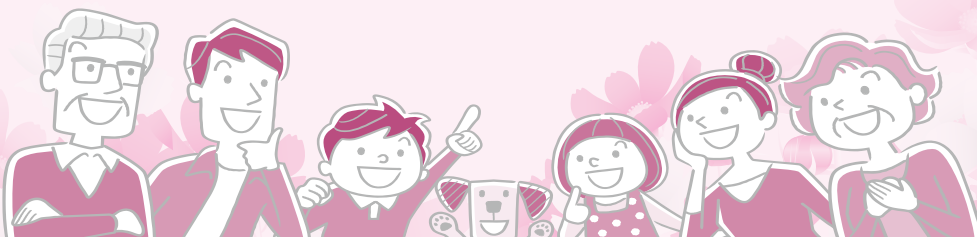
生活環境も変わり大家族から核家族へと、また昭和四十年代頃からの宅地造成により新しい団地が多くでき地域性も変わり現在に至っています。今年はその年に拍車を掛けるようにコロナ禍の影響でくつろぎの場所でもあった家庭、離れている家族、親族とも一線を置くような時代となってしまっています。コロナ禍の問題が終息してもこれからの人間関係、生活体系、社会情勢も大きく変化してくるのではないのでしょうか。

加入促進部会長 福田 正美

●加入率の推移（鳥取市全体）5月末現在

加入率は、下表のとおり年々低下しています。（住民基本台帳による世帯数で算出）

H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年
70.3%	69.8%	68.8%	67.9%	66.7%	66.6%	65.9%	65.9%	64.9%	64.1%



日進地区

まちづくり協議会の活動について

日進地区自治連合会
会長 入江峰生

日進地区まちづくり協議会は、平成十八年四月に発足し活動を開始しました。

本協議会は地区自治連合会を中心にして発足直後よりアンケート調査を実施し、地域の発展と地域課題を解決するため五部会を設け活動しております。

第一部会 にぎわいのあるまちづくり

○住民が集い・交流を深めるイベントとして、毎年八月に地区納涼祭（きんさい祭り）を開催しておりますが、今年はお盆の中止となりました。

○人が集まるにぎわい広場として公民館事業に積極的に協力しています。

第二部会 暮らしやすいまちづくり

○きれいなまちづくりとして地区内の街並を花で飾る活動を実践しています。

○安全な通学路対策としてゾーン三十の拡大整備を行っております。

第三部会 防犯・防災対策が徹底しているまちづくり

○地区内防災対策として防災リーダーの拡充の為の受講支援、防災訓練及

び防災先進地研修を行っております。

○児童の防犯・交通安全対策としてホットライト委員会と連携して下校時巡回見守り、日進小・南中のCS運動への協力として登校時のあいさつ運動・花づくりを実践しております。

第四部会 健康を推進するまちづくり

○健康づくりとして、地域・小学校合同運動会、ウォーキング、ベタンク大会、グラウンドゴルフで小学生との交流会を実施予定です。

第五部会 協議会の運営企画を担当

今年はお盆問題で中止した事業が多くありました。また事業のマンネリ化・中核メンバーの高齢化と固定化、町内会加入世帯の減少等、今後の課題が山積している状況です。



夏まつり



明德地区

有楽町町内会の活動について

有楽町町内会
会長 土橋周美

有楽町町内会は、昭和二十七年鳥取大火後に、行徳七十九番地周辺を埋立造成され、昭和三十二年に名称を「有楽町」とし、正式に町内会として発足しました。

現在、人口約二百五十名百世帯となっております。町内の組織として、自警団・女性の会・子ども会・体育会・シニアクラブがあり、それぞれの行事を積極的に取り組んでいます。

シニアクラブでは、会員六十名と会員数も多く、毎月のサロン活動（会員同士の談話会や勉強会）や日帰り研修会、名月観賞会など幅広い活動に積極的に取り組んでいます。

自警団で

は、年二回の防災訓練の他、町内の各団体と連携を取りながら、独居の高齢者の方々等（要援護者）を対象に、平時の見守り体制の



防災訓練

仕組みや災害時の避難支援の仕組み作りに取り組んでいます。

子ども会では、子どもの数が少なくなりましたが、歓送迎会・クリスマス会・廃品回収など元気に取り組んでいます。

明德地区は神社の氏子が多く、二年ごとの神幸祭には各町内（六町内）が屋台を出し祭りに参加しています。

当町内会も、昭和六十二年より参加しています。踊りの練習・笛太鼓の練習・屋台の飾りつけなど準備が大変ですが、分担しながら町内一丸となって取り組んでいます。

祭りに参加することで、年齢や性別に関係なく大人から子供まで仲良くなり、笑顔で挨拶の出来る町内になりました。



祭りの集合写真

美穂地区

美穂まちづくりの報告

美穂まちづくり協議会

会長 半田卓實

美穂地区は、千代川左岸側と、大井手側右岸に挟まれた自然豊かな地域であります。地区には、十二自治会で構成され人口千七百五十九人、世帯数七百六十三世帯となっております。まちづくり協議会が発足して十年経過いたしました。平成二十三年七月に鳥取市より協議会が認定され、毎年地域の活性化を目指しそれぞれの担当が事業を実施しております。

まちづくりの基本的な目標を定め、

「むら」から「まち」へと、地域住民が一つになって老若男女が互いに助け合い、活力ある地域づくりを目指して計画を作成いたしました。

まちづくり計画を進めるにあたり、五つの柱を立てました。

(総合・企画)

みんなで優しいまちづくり

(安全・安心)

毎日安全に安心して暮らせる地域づくり

(子育て・教育)

皆で育てみんなで学ぶまちづくり

(健康・福祉)

皆で生き生き健康なまちづくり

(農業・環境)

緑豊かな環境を生かしたまちづくり

以上五つの専門部を構成し、それぞれに担当責任者(部長・副部長)、さらには各自治会より推薦された各種団体の方たちが常任委員であります。

四月には、美穂地区全体の総会で周知ご協力いただけるよう、各部の担当者はそれぞれ数回部会を開催し、当年行う事業計画及び予算等を検討します。各部会がまとまり次第拡大役員会(会長、副会長、各部長、副部长、会計、公民館職員)を開き確認します。

美穂地区の最大の事業は、夏に行います「納涼集う会」です。まちづくり協議会全員で取組み、買い出し、テント張り、演技用舞台作り、照明設備等々



防災訓練



納涼集う会

を行います。本番は土曜日ですが、前日には上記をセットし、日曜日に後始末と三日がかりとなります。

屋台では、各専門部ごとに沢山の食べ物、飲み物を準備してお待ちしております。

舞台では傘踊りなど多彩な催しで、多くの住民の方に熱い夜を堪能していただいております。

今までに、安来節保存会、毎年恒例の下味野傘踊り、ガイナールのキャラクターに特別参加をしていただいております。

また、当地区には自慢できる施設がございます。平成二十四年に増築された「談話室」であります。この施設を利用して、平成二十四年より地区住民の居場所づくりカフェサロンを開設いたしました。ボランティア女性十五名、男性四名の協力のもと安くておいしいコーヒーを準備し、毎週水曜日と第二、第四土曜日に開店しております。

今後も、地域の皆さんを巻き込んだ、「地域の活性化」と「安全・安心」のまちづくりを目指し取り組んでまいります。



後記

令和は三年目を迎えましたが、昨年も甚大な自然災害が多発し、加えて新型コロナウイルス禍が世界的に蔓延し終息は見えませんが、一方、世情は目指す方向とは逆行する様に分断・排除・各種格差が拡大し、混乱状態にあります。

この様な中では、それぞれが自然に帰り、関心を持って現実を見極め、正しく考動する事と互助・共生出来るコミュニケーションが喫緊の課題となってきました。

地域の「現実・現場・現物」を知る住民こそが地域創造の主役です。

広報委員長 田中 雅勝